

令和5年度シラバス

文化学園大学保育専門学校

| 科目名 | | | | 授業の種類 | | 授業担当者 | |
|---|------------------------------|-----|------|--|-------|-------|----------|
| 保育内容指導法・言葉 | | | | 演習 | | 水口 崇 | |
| 学年 | 単位 | 時間数 | 授業回数 | 履修時期 | 選択・必修 | | |
| 1 | 1 | 30 | 15 | 後期 | 幼免：必修 | | 保育士：選択必修 |
| <p>[授業の目的・ねらい] 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。具体的には、子どもたちが自分なりの言葉で表現したり相手の話を聞こうとする態度や意欲を育てるための指導上の留意点や評価の考え方、小学校の教科とのつながりなどについて学ぶ。また、子どもの言葉の発達過程、子どもの言葉を育み、豊かにする環境構成と援助の方法について学ぶ。それらを理解した上で、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容と概要] 領域「言葉」に関わる幼稚園教育要領の内容や幼児の言葉の発達、子どもの言葉を育み、豊かにする環境構成と援助の方法について解説する。また保育を構想する方法について実践的な活動を通して学ぶ。授業では毎回レジュメを配布する。授業内容に関する小レポートやグループワーク、発表などの課題を通して理解を深めていく。ICTの活用も取り入れる。</p> <p>[受講上の注意事項] 特になし</p> | | | | | | | |
| <p>[使用テキスト] ・文部科学省(2018) 幼稚園教育要領解説 フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省(2018) 幼保連携型認定子ども教育・保育要領解説 フレーベル館 ・厚生労働省(2018) 保育所保育指針解説 フレーベル館 ・岩立志津夫・小椋たみ子(2017) よくわかる言語発達 ミネルヴァ書房</p> | | | | <p>[評価基準] 授業に加え、自習によって知識・技能が高まっている。授業内での課題(50%)と最終レポート(50%)によって評価を行う。</p> | | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・授業内容] | | | | | | | |
| 回 | 項目 | | | 授業内容 | | | |
| 1 | 幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容 | | | 科目の性格と位置づけ、幼稚園教育の基本、領域「言葉」の概要 | | | |
| 2 | 領域「言葉」のねらい及び内容と小学校の教科等とのつながり | | | 幼稚園教育の基本と領域「言葉」のねらい及び内容、小学校の教科等とのつながり | | | |
| 3 | 子どもの言葉の発達① | | | 言葉の発達の基盤と話し言葉の発達－初語まで－ | | | |
| 4 | 子どもの言葉の発達② | | | 言葉の発達の基盤と話し言葉の発達－二語文まで－ | | | |
| 5 | 子どもの言葉の発達③ | | | 言葉の発達の基盤と話し言葉の発達－二語文以降－ | | | |
| 6 | 子どもの言葉の発達④ | | | 書き言葉の発達 | | | |
| 7 | 子どもの言葉の発達⑤ | | | 言葉の発達のつまづき | | | |
| 8 | 言葉を育む環境構成と援助① | | | 話したい、聞きたい意欲を育てる環境構成と援助の方法 | | | |
| 9 | 言葉を育む環境構成と援助② | | | 生活に必要な言葉の習得を支える環境構成と援助の方法 | | | |
| 10 | 言葉を豊かにする環境構成と援助 | | | 言葉や文字などで伝える楽しさを育む環境構成と援助の方法 | | | |
| 11 | 言葉を育む保育の実際 | | | VTRによる保育場面の観察と教材研究 | | | |
| 12 | 言葉を育む保育の構想 | | | 具体的な保育場面を想定した指導案の作成 | | | |
| 13 | 発表と振り返り① | | | 領域「言葉」に関する保育実践の発表(前半) | | | |
| 14 | 発表と振り返り② | | | 領域「言葉」に関する保育実践の発表(後半) | | | |
| 15 | まとめ | | | 全体のまとめと最終レポート(授業での学びの振り返り) | | | |
| 実務教員としての経歴 | | | | | | | |
| 実務経験と授業の関連 | | | | | | | |